

**当院では以下の調査に協力し、情報を提供いたします。**

この情報提供については、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さまのお一人ずつから直接同意を得るかわりに、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

## 調査名

**「周術期肺血栓塞栓症発症例の簡易調査および術前静脈血栓塞栓症例の周術期調査」  
「麻酔関連偶発症例調査」**

### 1. 調査の目的

公益社団法人日本麻酔科学会では、偶発症例（肺塞栓）ワーキンググループ（旧麻酔関連偶発症例調査専門部会）が中心となり麻酔科認定病院の麻酔科が管理した管理症例を対象として、1992年より10余年に渡って、年次別の「麻酔関連偶発症例調査」を行っています。麻酔関連偶発症例とは、「原因の如何を問わず、麻酔がかかっている状況下で生命危機状態となった症例」を指すものです。

麻酔中に患者様の生命が危機的状態にさらされてしまった症例そのものを検証し、結果的に何が原因であったのかを特定した上で、再発防止策やガイドラインなどを作成することが目的となります。また、麻酔科認定病院を調査対象とする理由は、日本麻酔科学会が適正かつ安全な麻酔関連業務を遂行し得る施設であると認めた病院を、つまりわが国の麻酔の水準が高い病院を対象に危機的症例の調査をすることによって、学会で予防対策をたて、これらの病院に指導し、模範的対策を発信することができるからです。そのためには、できるだけ多くの症例を収集し、安定した信頼性の高いデータベースを構築する必要があります。麻酔科認定病院約1,116施設からの最近の回答率は67%で、データベースの母集団は年間97万症例に達しています。このような大規模調査は世界でも類を見ないものであり、貴重な資料が集積されつつあります。

### 2. 提供させて頂く情報

- ・当院における麻酔管理件数および血栓塞栓症例に関する情報（年齢・性別・手術部位・転帰）
- ・当院手術室で発生した危機的偶発症例、ならびに麻酔および手術に起因する神経系偶発症例に関する情報（年齢・性別・ASA-PS・体位・手術部位・麻酔法・血液製剤使用量）

### 3. 調査の方法

患者個人の特定が出来ないように、匿名化回答方式を取り入れ、公益社団法人日本麻酔科学会に提出します。学会に集積されたデータは統計学的な処理・解析のみを目的としています。

対象となる症例の中で、学会への情報提供に応じて頂けない場合は、その方の情報は提出いたしませんので、下記お問い合わせ先までご連絡ください。

### 4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。  
ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、情報が当該調査に用いられることについて患者さまもしくは患者さまの代理人の方にご了承いただけない場合には調査対象としないので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さまに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

和泉市立総合医療センター

住所 大阪府和泉市和気町 4-5-1

電話番号 0725-41-1331（代表）

当院責任者：和泉市立総合医療センター 麻酔科 梶川 竜治

（2019年2月6日作成）